

学校教育目標 「ともに成長し、未来を切り拓く児童の育成」  
 めざす学校像 『誰もが行きたい 行かせたい 来させたい学校』  
 めざす児童像 まなぶ子 はげむ子 あたたかい子  
 Let's challenge Keep trying Keep shining



# 神郷北小だより



令和6年3月吉日号②  
 新見市立神郷北小学校

## 読書感想文コンクール（課題図書）

『先生、「つゆやすみ」って何ですか。』

～「つゆやすみ」を読んで～

銅賞 中学年部3年 竹田 悠希さん



岡山県学校図書館協議会主催の読書感想文コンクールに応募し、新見支部審査会で銅賞を受賞した感想文です。本好きな竹田くんが、聞き慣れない言葉に関心をもち、読み始めた本を通して、率直に感じた思いが描かれています。

「先生、『つゆやすみ』って何ですか。」  
 って、先生にたずねたら、先生に、  
 「そんな言葉、聞いたことがありません。」  
 って言われた。「つゆ」と言う言葉は、ぼく  
 だって知っている。六月ごろ、たくさん雨が  
 ふることだと知っている。もう今年は終わっ  
 たと思うんだけど。

そう思いながら、ぼくは、この本を読んで  
 みた。そもそもこの本の中では、そうじき  
 がしゃべって動き出した。なんと名前までつ  
 いている。「ひでじいさん」ありえないことな  
 んだけど、読んでいたら、とても楽しくなっ  
 た。特に楽しかったのは、大だこが、いじめ  
 つこにおそいかかったところだ。主人公のけ  
 んいちに、いじわるをしてほしいじめつこに  
 天ぼつがくだったように見えた。でも、ちょ  
 っとかわいそうにも見えた。おそわれた時、  
 「うわあ。」

ってさげんで、海に落ちそうだったから。そ  
 んないじめつこを、ひでじいさんが助けてあ  
 げた。

いじめつこはないていたけど、あやまらな  
 かった。いじつぱりなのか、やはり、いじわ  
 るなのか、へんなやつだ。パーベキューにさ  
 そつてもむしっていた。だから、けつきよく  
 ひでじいさんが、そうじきのホースですつ  
 て、力づくでみんなの前にすわらせた。そし  
 て、やきたての魚をすすめた。だまって食べ  
 ようとしたいじめつこに、ひでじいさんは、

「こら、口に入れる前に、言うことがあるや  
 ろ。」と、にらんだ。いじめつこは思わず、  
 「あつ、いただきます。」

と言った。どんな時でも、ひでじいさんは、マナ  
 ーを大切にする人なんだと思った。  
 いっしょにパーベキューを食べながら、けんい  
 ちといじめつこは仲よくなった。いっしょに何か  
 を食べると、関係がよくなると思った。ぼくたち  
 も、毎日いっしょに給食を食べている。やっとお  
 しゃべりもできるようになったから、給食の時間  
 が何倍も楽しくなった。ちよつといやなことがあ  
 っても、しぜんと仲直りしている。ふしぎだなと  
 思う。

ところで、ぼくは「つゆやすみ」が知りたくて  
 この本を読んだんだ。けつきよく、「つゆやす  
 み」は、つゆの中休みで、天気がいい日のこと。  
 こんな日は、そうじもしないで、いい天気をしつ  
 かり楽しむことなんだと思った。そうじきだつ  
 て、毎日毎日同じ事のくりかえしで、つまんない  
 だろうなと思う。ぼくの見ていないところで、も  
 しかしたら、いろんなきかいが休みを楽しんでい  
 るのかもしれないと考えると、すごくおもしろく  
 なってきた。本の世界が見えるといいの  
 な。

さいごに、この本には、  
 まだまだシリーズがある  
 ので、もっともつと読ん  
 で、話の世界を楽しみた  
 いなと思った。



## 読書感想文コンクール(自由図書)

### ぼくのゆめ

～「化石のよぶ声がきこえる」を読んで

## 銅賞 中学年部3年 眞壁 晃生さん



岡山県学校図書館協議会主催の読書感想文コンクールに応募し、新見支部審査会で銅賞を受賞した感想文です。本を読みながら、自分の将来について考えるようになった晃生くんです。いい本との出会いは、夢が膨らみます。

図書室に行くと、化石の絵が目に入った。きょうりゅうの化石だ。頭の形がかっこいいと思った。足はどくなっているのかなあ。ぼくは、もっと化石のことが知りたくなって、この本を読んで見ることにした。

ウエンディの目は、ちょっととくべつだ。すてきなものをたくさん見つけることができる。とくべつな目をもっているなんて、うらやましい。ぼくにもこんな目があったら、化石をさがしたい。そして、見たこともない動物を見つけてみたいと思った。

ウエンディが十二さいの時、遠足でサンゴの化石を見つけた。先生に『君はいい目をしているね!』と声をかけられた。ぼくは、ウエンディがサンゴの化石を見つけてすごいと思った。ウエンディの目は、やっぱりすごいと思った。

サンゴの化石から、そこは、昔は海の下で、たくさん生き物がくらしていたことがわかると、先生が教えてくれた。ウエンディはおどろき、むねがあつく感じた。ここが海の下で、たくさん生き物がくらしていたことに、びっくりしたんだ。化石で、こんなことがわかるなんて、ぼくも、はじめて知った。すごいなあ。

それからというもの、ウエンディは、化石をさがすようになった。そして、とびきりめずらしいきょうりゅうのたまごの化石を見つけた。この発見によって、ピパクロサウルスが、どのように子どもから大人へと

成長したかを、知る手がかりになった。ウエンディの発見はすごいことだと思った。好きなことを続けていくと、こんなすごい発見をすることができるんだ。

ウエンディは、化石をクリーニングするぎじゅつを学び、それを自分の仕事にすることに決めた。そして、『化石のよぶ声がきこえる人』とよばれるようになった。そして、ウエンディは、トリケラトプスが生きていた時代より、ずっと前のきょうりゅうの骨を見つけた。これによって、角りゅうるいが、どのように進化したのか、かこのひみつがまたひとつ、明らかになった。

ぼくは、化石ではないけれど、生き物が大好きだ。だから、とてもきょうりゅうがある。二年生の時、赤ちゃんのさるがまいごになっていて、家のうらの畑にいた。木の実をあげると、「キューン。」

と、うれしそうに泣いた。えさをやり続けていたら、お母さんさるが来て帰っていった。畑のもぐらの穴を見つけたこともある。もぐらの食べ物を調べ、穴の所においておいたら、食べに来た。ぼくにも、生き物を見つける目があるかもしれない。

ぼくは、ウエンディのように化石ではないけど、動物にきょうりゅうがある。ウエンディのように、動物を見つけ、いろいろと調べ、くわしくなりたい。そして、大きくなったら、動物のお医者さんになりたいと思うようになった。

